



# かがやき

海田西小学校  
通級指導教室だより No.17  
令和5年11月9日(木)



## ADHD の特性と関わり方

(参考資料「発達障害の子どもの心がわかる本」)

発達障害の中でも ADHD(注意欠如／多動性障害)は、性格なのか障害なのかの見極めが難しく、ADHDがよく知られるようになった現在でも、「性格が悪い。」「しつけができていない。」等、言われることがあります。

ADHDは、脳の機能障害であり、本人の努力や親のしつけとは無関係です。自分の要求や行動を抑制する機能がうまく働かず、「今やるべきこと」ではなく、「今やりたいこと」をしてしまうため、「落ち着かない。」「叱られても同じことを繰り返す。」と、言われる原因を作ってしまったたり、集団活動や人間関係がうまくいかなかったりすることがあります。

特性としては、不注意・多動性・衝動性があげられますが、個々によって症状は違います。

① 不注意	② 多動性	③ 衝動性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの事に集中するのが苦手。</li> <li>・気が散りやすい。</li> <li>・ケアレスミスが多い。</li> <li>・指示に従えないことが多く、最後までやり遂げることが難しい。</li> <li>・精神的努力を続ける課題(長い文章をまとめる等)を避ける・嫌う。</li> <li>・物や時間の管理が難しい。</li> <li>・やるべきことを忘れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっとしてられない。</li> <li>・姿勢の保持が難しい。</li> <li>・思いついたことを一方的に話し続ける。</li> <li>・相手の言いたいことをくみ取ったり、話を最後まで聞いたりすることが難しい。</li> <li>・気になることがあると立ち歩く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待てない。</li> <li>・ほしい物があると、奪い取ってしまう。</li> <li>・他人の活動を邪魔したり、妨害したりする。</li> <li>・集団のルールが守れない。</li> <li>・言いたい気持ちが抑えられず、相手の話を聞かずにしゃべる。</li> <li>・怒りや悲しみの感情が抑えられない。</li> </ul>



## 周りの大人ができること・すべきこと

体罰・暴言・どなる・・・は、  
悪い結果を生むだけ

一時的に従ったとしても、聞き流すことを覚え、声が届かなくなります。  
さらには、「人を暴力で従わせる」と、いう間違った方法を学んでしまいます。



### ○注意の回数を減らす

絶対にやめさせるべきことと、見逃してもよいことを見極めて声をかけましょう。

#### 絶対にやめさせるべきこと

→法律に違反すること(人の体を触る・人の物をとる等)  
自分や他人を傷つけること(自傷行為・暴力・暴言等)

正面から目を合わせ、  
落ち着いた口調で、  
一度で短く伝える。



ADHDの子は、暴言や乱暴な行動で相手の反応を求める傾向があります。  
それに応じると、注目されたくて問題行動が増えることがあるので、好ましくない行動は、教育的スルーをすることが望ましいです。  
良い行動がとれた時にしっかり褒めることで、善悪の判断がついていきます。

「ありがとう。」「ごめんなさい。」が、  
言える子に！  
これらの言葉は、社会を生きていくためのパスポート。  
自然に言えるように教えていきましょう。

ADHDの子達は、本来、活動的でエネルギッシュ。  
自分から「やるぞ!」と、決めたことに対しては、  
強い気持ちで取り組み、成果をあげます。  
的確な支援を心がけて、指導していきましょう。

### ○スケジュールの見える化

ADHDの子の頭の中は、情報が散乱しています。

また、行き当たりばったりで考える傾向があります。

「今すべきこと」を理解させるには、視覚に訴えることが効果的。

スケジュールを具体的な言葉で書き、順番に予定をこなしていく練習を通して、ルールやスケジュールにそって行動できる力をつけていきましょう。